

こども忍者修行②「忍者の森」

1 活動の目的、効果

(1) 体験活動上の効果

◎阿蘇の自然に親しむ 集団行動規律 課題克服達成感 仲間づくり協調性 自主性創意工夫

(2) ESD の課題解決に必要な 7 つの能力・態度

⑦進んで参加する態度 集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

2 活動の詳細

<p>概要 (セールスポイント)</p>	<p>「忍者の森」は、幼児が自然の中で楽しみながら運動に取り組むプログラムです。 それぞれの種目にストーリー性を持たせることで、幼児がやってみたいと思う意欲の向上を大切に、「できた」「できなかった」よりも、プログラムに進んで取り組もうとする姿を大事にしています。</p>					
<p>諸条件</p>	<p>実施形態</p>	<p>指導必須 ※活動前の安全指導</p>		<p>提出書類</p>	<p>食事・教材注文票（ドラム缶風呂、薪用）</p>	
	<p>必要経費</p>	<p>燃料代（1箱 550円） ※ドラム缶風呂使用の場合</p>		<p>所要時間</p>	<p>3時間程度</p>	
	<p>活動場所</p>	<p>キャンプ場周辺</p>		<p>対象・人数</p>	<p>幼稚園児（年中・年長） 30人程度</p>	
	<p>事前下見</p>	<p>なし</p>	<p>実施時期</p>	<p>3月～11月（ドラム缶風呂は7月～10月まで）</p>		<p>天候 荒天、雷雨は中止</p>
<p>準備するもの</p>	<p>青少年交流の家で貸し出し可能な物</p>			<p>団地で準備する物</p>		
	<p>「忍者の森」の道具 無線メジャー ストップウォッチ マイク 簡易雷検知器</p>			<p>【参加者】 運動に適した服装（長袖・長ズボン） 運動に適した靴 帽子 軍手 水筒 タオル 水着（ドラム缶風呂実施のみ） 【団体】 救急用品 携帯電話 笛 薪（ドラム缶風呂実施時のみ）</p>		
<p>役割分担</p>	<p>交流の家職員が行うこと</p>				<p>団体引率者が行うこと</p>	
	<p>1) 「忍者の森」のセッティング 2) 物品の貸出 3) 説明、安全指導 ①忍者の森について ②アイスブレイク ③各種目について 5) 物品の受取</p>				<p>1) 物品の借用 2) 参加者とともに安全指導を受ける 3) 活動時の安全管理、人員確認、健康・安全把握 ・それぞれの種目は原則ローテーションで行う。 （進め方については要相談） ・活動と活動の間に適宜休憩を入れる。 ・活動後は種目ごとに、簡単なふりかえりを行い、次の種目へつなげる。 4) 物品の返却</p>	

3 活動のふりかえりのポイント

視点：「楽しく活動することができたか」「安全に活動することができたか」

発問例：「いつもはできない忍者修行をして楽しむことができましたか」「怪我をせず、安全に活動できましたか」

4 SDGs で目指す姿

<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> 	<p>15.4 2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実にを行う。 ・豊かな自然環境について考えることで、それらを守り維持していこうとする態度を育てることが期待できる。</p>
--	---	--

安全な活動を行うために

1 引率者の方へお願い

- ①団体の引率者は、利用の1か月前を目安に、必ず事前打合せを行ってください。
- ②交流の家職員が指導に当たります。安全管理の必要性から活動前には利用団体の引率の方と具体的な打ち合わせを行います。時間の確保をお願いします。
- ③1種目について最低大人2人が必要です。複数の目で子ども達の安全を確保します。
1種目の参加者は最大10名程度とします。状況によって進め方の変更もあります。(ローテーションか全体か)
- ④活動中は、引率者も一緒に活動に入り、集団の指導・支援を行っていただきます。

2 緊急連絡体制

- 事故が起きた場合、引率者がいる場合は、職員もしくは引率者から事務室へ連絡を入れます。
無線は必ず携帯してください。
- 事務室への連絡（無線もしくは第1・2キャンプ管理棟内の内線電話から234）
(電話 0967-22-0811)

「忍者の森」のストーリー

阿蘇青少年交流の家の奥にある森では、わんぱく忍者の修業が行われているぞ。
そこでは、わんぱく忍者が一生懸命修業をしているぞ。
さあ、みんなもわんぱく忍者になってみよう!

- つなとびの術** 川を飛び越える修行だ。でも、その川にはワニが住んでいて、川に落ちたら、お尻をかじられるかも……。勇気を出して、飛び越えよう!
- とおみはりの術** 桜の木にのぼってみよう。根子岳からギザギザ鬼が下りて来ないか、高いところからしっかり見張ってね。
- かべのぼりの術** しっかりロープを握って、がけを登ろう。力いっぱい踏ん張らないとツルリと滑ってしまうぞ。
- しのび歩き・つなわたりの術**
バランスをとって、「一本橋」「ユラユラベルト」を渡ってみよう。
そろりそろり、しのび歩きだぞ!
- 床忍びの術** 張り巡らされた網目をくぐったり…。敵にばれないように慎重に!
- 湯あみの術** 忍者にとって、体のケアは何より大切。修行で頑張った体をあったかいお湯でほぐして、次の修行に備えるのじゃ。

さあ、みんな、「忍者の森」に遊びに来ないか。みんなのがんばる姿を見せてくれ!

(イ)つなとびの術

1 活動のストーリー

つなを使って川を飛び越えるのじゃ。川に落ちたらワニからお尻をガブツとかじられてしまうぞ。さあ、みんな、勇気を出して飛び越えてみよう！

互いに励ましあうことで、スキンシップや協力が図られます。
また、どうすれば上手にできるのかをお互いに相談しあう場面を設定することでコミュニケーションも生まれます。

2 幼児に身に付けたい36の基本的な動き



ぶらさがる



はねる



つかむ



ひく

3 セットアップ

- 脚立を使って丸環にスイングロープのナス環を取り付け、ロックする。
- 木の根元にスタート地点となる大台を置く。
(対象に合わせて、距離は調整する。)
- 台が安定しているか確認する。
- 活動エリアに枝や石などの危険な物がないか確認する。
- ロープ2本で飛び越える川(スタート2m程度)を設定する。(対象に合わせて、距離は調整する。)

4 注意

- 必要に応じて自分たちの力を試したり、スイングに慣れるために事前に練習する機会を設ける。
- ロープを放してしまって頭や背中を強打してしまうことがある。ロープは最後まで放さない。
- フットループに足をかけると外す時に助けが必要になるので、最初のチャレンジャーは、フットループに足をかけてはいけない。
- 指導員はスイングが最大になる時点の補助にあたる。

5 片付け

スイングロープを取り外し、大台、脚立とともに1管下倉庫に収納する。



1 活動のストーリー

「忍者の森」には時々、ギザギザ頭の根子岳からギザギザ鬼が下りてくる。
あやしいものがないか、高いところからしっかり見張るのだ。

<木登りの効果>

- ① 複雑に張り巡らされた枝を読み取り判断しながら、全身の複雑な運動をトータルで使うことで、子どもの体力とバランス感覚の向上につながる。
- ② 危ない・大丈夫と瞬間的に判断し、まだ登れる・もうできない、と自分の決定で進路を取ってゆくことで子どもたちは複雑で総合的な動作を展開するだけでなく、思考力・判断力を育てる。

2 幼児に身に付けたい36の基本的な動き



3 セットアップ

- 木が腐食していないか、枝が折れやすくなっていないかを事前にチェックしておく。
- 活動エリアに枝や石などの危険な物がないか確認する。

4 注意

- 子供自身で何が危険かを判断できるようになるために、安全に配慮しながら、あえて少し危険なことにも挑戦させる。
- 子ども自身が「どこに手足をかければ上りやすいか」を考えていくような言葉かけを行う。
- 木の上からの眺めを楽しませることで、達成感を感じさせる。
- 子どもが木の皮等で手のひらに痛みを訴える場合、軍手を使用させる。



(ハ)かべのぼりの術

1 活動のストーリー

しっかりとロープを握って、崖を登ろう。勇気を出して、頂上を目指すのだ！
ツルリと滑るなよ。

<「斜面登り」に考えられる効果>

- ① 斜面を登ったり降りたりすることで体幹の筋肉が鍛えられる。
- ② ロープを握り、しっかりと踏ん張って斜面を登ることで手足をコントロールする力を育てる。
- ③ 斜面を登ったり、下りたりすることができた時に達成感を得ることができる。

2 幼児に身に付けたい36の基本的な動き



3 セットアップ

- ロープを結ぶ木が腐食していないか、ロープが切れやすくなっていないかを事前にチェックしておく。
- はしごをかける側面が滑りやすくないか、はしごがぐらつかないか負荷をかけて確認する。
- 活動エリアに枝や石などの危険な物がないか確認する。
- ロープ、はしごをセットする。

3 注意

- 子供自身で何が危険かを判断できるようになるために、安全に配慮しながら、あえて少し危険なことにも挑戦させる。
- 子ども自身が「どうやって登れば登りやすいか」を考えていくような言葉かけを行う。
- 斜面の上からの眺めを楽しませることで、達成感を感じさせる。
- 子どもがロープで手のひらに痛みを訴える場合、軍手を使用させる。

4 片付け

- ロープ、はしごを取り外し、1管下倉庫に収納する。



(二)しのび歩き・つなわたりの術

1 活動のストーリー

上手にバランスをとって「ユラユラベルト（スラックライン）」や「一本橋」を渡ってみよう。無事に渡ることができるかな。そろりそろり、しのび歩きだぞ！

<スラックライン・丸太の一本橋の効果>

木と木の2点間に細いベルトを張り、そのラインの上でバランスをとって楽しむ遊びです。バランス感覚や集中力を高めることに効果が見られます。

2 幼児に身に付けたい36の基本的な動き



3 セットアップ

○転落した際に、地面に椅子や大きな石など、怪我に繋がる物が放置されていると大変危険であるので、一本橋やスラックラインを設置する場所の近くの地面に物が落ちていないかを確認する。

(スラックライン)

○木にスラックラインを取り付ける。

○木にスラックラインを取り付ける場合は、樹木の保護のために「ツリーカバー」を必ず使用する。ツリーカバーを木に巻き付け、その上にメインラインを巻き付ける。反対側も同じように設置する。

○ラチェットを使って、メインラインが「ピンツ」と張るように調節する。

○ラチェットは金属製で接触すると危険なので、ラチェットカバーで金属を隠す。

(一本橋)

○一本橋が濡れていないか、滑りやすくなっていないか確認する。

5 片付け

○物品に破損がないかチェックする。

○ベルトの反動でケガをすることも予想されるため、片づける際にはベルトに子どもが近づかないようにする。

○スラックラインはきちんと巻いて箱にしまう。

○足台、脚立は木の根元に片付け、風雨除けのビニールシートをかぶせる。



(木) 輪くぐりの術・床忍びの術

1 活動のストーリー

張り巡らされた網目をくぐるのは、敵の陣地に忍び込むための基本のわざじゃ。
網にはできるだけ、触らないように気を付けろ！

<床忍びの術>

クモの巣状に張られた網目の中や下を潜り抜ける遊びです。

どちらも、できるだけタイヤや網に触れないように手足、体を使います。

互いに支え合ったり抱え上げたり、どうしたら上手にくぐる子ことができるか、着地のポイントなどをアドバイスし合うなど、コミュニケーションも生まれます。

課題解決しながら

2 幼児に身に付けたい36の基本的な動き



3 セットアップ

(床忍びの術)

○網をセットする。(1 管下倉庫より)

4 注意

○地面に尖った木の枝や大きな石など、怪我に繋がる物が放置されていると大変危険であるので、足台や網を設置する場所の近くの地面に物が落ちていないかを確認する。

○輪くぐりの土台の距離を離すと難易度が上がるので、参加者の実態に応じて設定する。

5 片付け

○足台をキャンプファイヤー場へ、網を1 管下倉庫へ片付ける。

(へ)ドラム缶風呂

1 活動のストーリー

しっかり遊んだ後には、まぼろしの「ガンバターの湯」に入って、汗を流そう。
「ガンバターの湯」に入って元気を回復しよう！

<ドラム缶風呂の効果>

野外でお風呂に入ること、子ども達の驚きや感想などもたくさん生まれ、コミュニケーションも活発になります。ゆっくり楽しませてください。

2 セットアップ

○準備物

ドラム缶(200リットル) 脚立 ホースやバケツ(水を入れる為) 鉄板
釜戸用耐火ブロック3~5個 まき2束程度 入浴用すのこ

○「ドラム缶」を洗う → 「水」をドラム缶の約半分入れる →
薪を燃やし、「お湯」を沸かす。

※ときどき湯加減をみることを忘れない。「温かい」と感じてきたら、焚き火を弱める。一旦熱く沸かしすぎると温度調整(お湯を捨てたり、再度水を入れたり)が難しくなる。

○ドラム缶の底は高温になっているので、必ず「すのこ」の上に乗って入浴する。ドラム缶の側面は熱くないので、しっかり手で支えながら入浴する。

3 注意

○焚火の周りでは絶対に走ったり、暴れたりしない。

○入浴時には、お湯がこぼれないように気を付ける。

○幼児がドラム缶風呂に入る時、出る時には大人が補助に入ることによって安全面に留意する。

4 片付け

○灰は水をかけて消火し、灰捨て場に輪車で運ぶ。

○使った風呂の水は必ず排水をし、ドラム缶の内側を必ず洗浄しておく。

鉄板

